

令和3年度 学校運営連絡協議会 実施報告

1 組織

(1) 都立清瀬特別支援学校 学校運営連絡協議会

(2) 事務局の構成

副校長、主幹教諭＝事務局長、小学部・中学部・生活指導部・相談支援部主幹 計5名

(3) 内部委員の構成

副校長1名、経営企画室長、主幹教諭（教務担当）、主幹教諭（小学部担当）、主幹教諭（中学部担当）、主幹教諭（生活指導部担当）、主幹教諭（相談支援部担当） 計7名

(4) 協議委員の構成（敬称略）

中西 郁（十文字学園女子大学 教授）評価委員長兼務

岩澤寿美子（清瀬市子どもの発達支援・交流センターとことこ 園長）評価委員兼務

水野恵美子（清瀬市立清瀬第三小学校長）

小池雄志郎（清瀬市立清瀬中学校長）

柿添 信作（NPO法人 きよセラボ 代表）

西村 俊輔（元パーソルサンクス株式会社 事業本部長）

中溝 裕子（本校PTA会長）評価委員兼務 計7名

2 令和3年度学校運営連絡協議会の概要

(1) 学校運営連絡協議会（第1～3回）の開催日、出席者、内容、その他

第1回 令和3年6月25日（金）内部委員7名、協議委員7名

授業公開、協議委員委嘱、協議委員・評価委員紹介

学校経営計画、本校の現状と課題等説明、意見交換

第2回 令和3年10月8日（金）内部委員7名、協議委員7名

学校経営計画中間報告、協議委員からの教育活動に対する意見、学校評価の内容検討、協議

第3回 令和4年1月17日（月）内部委員7名、協議委員7名

学校評価アンケート集計・分析結果報告、評価委員会からの助言・提言

次年度に向けた課題の確認

(2) 評価委員会の開催日、会場、出席者、内容、その他

第1回 令和3年6月25日（金）評価委員3名、事務局2名

学校評価の基本方針の確認、今年度の学校評価の実施に向けた検討

第2回 令和3年10月8日（金）評価委員3名、事務局2名

学校評価アンケート内容の検討

第3回 令和3年1月17日（月）評価委員3名、事務局2名

学校評価アンケートの結果・分析報告と学校への助言・提言内容の検討

3 学校運営連絡協議会による学校評価（学校評価報告）

(1) アンケート調査の対象・規模・回収率（実施時期：11月）

○ 保護者アンケート 配布総数 246 回収総数 188 回収率 76%（昨年比 3%増）

○ 児童・生徒アンケート 児童 40名 生徒 100名 計 246名 回収総数 140 回収率 57%
（小 40/143 28%）（中 100/103 97%）

○ 地域住民アンケート 地域居住者 配付総数 10 回収総数 10 回収率 100%

○ 地域関連団体アンケート 地域関連団体 24団体 回収総数 23 回収率 96%

(2) 主な評価項目

① 保護者アンケートは、前年度のものを変更して実施した。「学校全般」「学習指導」「相談支援」「進路・キャリア教育」「保健・給食」「その他」の項目、27問に整理した。今年度学校経営計画に基づく取り組みに対する認知度を確認する質問項目を取り入れ実施した。

② 児童・生徒アンケートは、例年通りの内容で実施した。児童・生徒の障害認知特性に応じてアンケートに回答する際に、教員による支援を行った。

4 評価結果の概要

(1) 保護者アンケートから

今年度は保護者アンケートの回収率が76%であった。過去数年間の保護者のアンケートに関しては約70%前半ぐらいの数値で推移していることもあり回収率は例年並みである。次年度も回収率が上がるよう質問事項を整理し、回答しやすいアンケートの作成及び実施に取り組んでいくようにする。また、保護者の意見をより受け止めることができるよう、アンケート記入の協力をPTA役員会と協力しながら呼び掛ける。

① 良い評価を受けた項目（「あてはまる」「ややあてはまる」と評価した人の割合が高い項目及び前年度から評価があがった項目）

・「本校では、児童・生徒に応じたわかりやすい授業をしている」「教員はあいさつ、身だしなみ等の社会人としてのマナーを身につけている」「本校で作成している個別指導計画や学校生活支援シートはわかりやすい」「本校では児童・生徒の障害特性に応じた社会生活を送るうえでのルールやマナーなどの指導を行っている」「発達段階や障害特性に応じた、基本的な生活習慣を身につけるための指導を行っている」「本校では、アレルギー対応を行い、安全に給食を提供している」の項目である。特に学習指導においては、高評価を受けている。

② 今後も推進していく項目（学校評価アンケート分析結果から、改善がある必要があるとされた項目）

・「本校では、地域資源を活用し、地域とつながる学習活動を行っていることを知っている」「地域における学校間交流や、居住地における副籍交流の推進に取り組んでいる」「学校から進路に関する情報は参考になっている」では、前年度よりポイントは上がっているが引き続き分かりやすく内容を伝えていく必要がある。学校の活動が伝わるためにも「わかる・伝わる・つながる」を意識した情報発信により、今後も取り組む。

(2) 児童・生徒アンケートから

① 良い評価を受けた項目

学校生活について93%の児童・生徒は学校生活が「楽しい」と感じており、生徒にとって学校が主体的に活動できる場であるような取り組みを教育活動の中で継続していく必要がある。

③ 今後も推進していく項目

・設問「友達にいやなことを言ったり、やったりすることがある」と、「友達からいやなことを言われたり、やられたりすることがある。」というものに「はい」と答えた生徒がそれぞれ4%、2%と昨年度より少なくなった。継続して人権に基づく指導に力を入れる。
・「好きな授業」であがった上位の教科は、「保健体育」、「音楽」、「英語」であった。実技が主の教科を好む傾向にあることが分かる。
・休日の過ごし方はゲーム、テレビ、買い物、家で過ごすという生徒多かった。余暇活動については、過ごし方を自ら選んで計画できるよう、日々の教育活動を通して家庭との連携を図りながら進める必要がある。

(3) 地域住民アンケート結果から

① 地域居住者（学校近隣小中学校保護者及び地域商店街自治会）

・都立清瀬特別支援学校の高等部が分離して、高等部が東久留米特別支援学校として、開校したこと。小・中学部の設置の知的障害特別支援学校であることを知っているが、本校にかかわる情報に触れることがない方が多い。今年度の中学部の作業学習において、地域に出ていく活動を行うことができた。今後も地域と「つながる」学習活動を充実させることで地域の方々に本校のアピール等情報発信をしていく必要がある。

(4) 地域関連団体アンケート結果から

・地域関連団体連絡会により、児童・生徒支援情報の共有、地域関連団体と学校の取り組み対する情報交換ができることは素晴らしいとの意見がある。今後も、地域社会の中の学校として、児童・生徒の成長を見守り、支援するための情報発信と情報の共有をしていく必要がある。

5 学校運営連絡協議会及び学校評価を活用した次年度に向けた取り組み

(1) センターの機能の充実

- ・情報発信方法のさらなる工夫・改善をする。
- ・地域の特別支援教育の更なる充実を目指した有機的な連携の強化を図る。

(2) 学校の説明および実施責任

- ・児童・生徒、保護者、地域に対して「シンプル」「伝わる・わかる」「安心」「つながる」の視点で説明責任を果たし、教育活動の充実を図る。

(3) 教員のキャリア教育の推進に向けた教職員の意識改革

- ・子供の見本である大人としての社会性（外部折衝力・対人マナー・働く態度）を獲得する。
- ・地域と連携し、地域資源を活用した学習活動を充実する。

6 職員連絡会及び企画調整会議への協議委員の参加実績及び成果

【実績】 職員連絡会 1回 延べ1人（令和4年1月28日職員連絡会）

【成果】 学校運営連絡協議会委員長より、本校への提言をいただいた。今年度の評価と次年度に向けた課題をいただき、教職員の課題が明らかになるとともに、教職員の意識を高めることができた。

以上